



栃木市マスコット
キャラクターとち介

農業委員会だより とちぎ

2014.6.1
第2号

発行/栃木市農業委員会
編集/農業委員会だより編集委員会
電話/0282-21-2393

女性農業者対象の
農業機械安全教室を開催



PR用のぼり旗

全国初! 国の補助金を活用

安全教室の目的

市内の農業者人口の約4割を女性が占めるなど、近ごろ女性が農業機械を操作する場面が増えていることから、安全意識の向上を目的として開催いたしました。

女性向けの安全教室は全国的にも珍しく、平成25年度新設された農林水産省の農作業安全緊急推進事業を全国で初めて活用しました。



目次

- 新委員紹介 P.2
- 農林水産大臣表彰ダブル受賞 .. P.2
- 専門委員会の活動状況 P.3
- 大雪による農業被害 P.4
- スカイベリーとは P.5
- 地域の話 P.6

「これからは、お父さんに頼まなくてもうね立てができる!参加してよかった。」と嬉しそうでした。(手塚政子委員)

若い方は、キャビン付きの大型トラクターに関心が集まり、係の方に乗り方、エンジンのかけ方等、初歩から熱心に指導を受けていました。直売所に野菜を出荷している女性は、管理機に時間をかけて挑戦していました。

今年の安全教室は、機械操作のできない方に重点を置き、「誰でも何かの機械に触れて、動かせるようになる!」を目標に掲げ、トラクター、管理機、刈払機の三機種の操作を県農業大学校と農機センターの職員の方にご指導いただきました。

平成26年2月26日、JAしもつけ広域農機センター(惣社町)を会場に農業機械安全教室を開催しました。

安全教室の概要

岩舟町との合併により新委員誕生

4月5日の岩舟町との合併に伴い、岩舟地域から新たに4人の農業委員が加わりました。

委員紹介と担当地域



坂本委員

曲ヶ島・
静(茂呂・羽抜・
御門)



高橋委員

鷺巣・
静(茂呂・羽抜・
御門を除く)・
下津原・豊岡



戸澤委員

五十畑・和泉・
静和・静戸



山中委員

古江・新里・
三谷・下岡・
上岡・小野寺

農林水産大臣表彰ダブル受賞

市農業委員会と大橋重会長は、この度農林水産大臣表彰を受賞し、5月14日に表彰状が贈られました。

市農業委員会は、東日本大震災の被災者に空き家と農地の斡旋、女性委員の活動、耕作放棄地解消支援活動など、農業委員会の地域に根付いた活動が評価され、今回の受賞となりました。

また、大橋会長は、平成17年7月から農業委員を務め、都賀町農業委員会会長を歴任し、合併後、市農業委員会会長職務代理者を経て、現在会長2期目として市町合併に伴う農業委員会統合の調整役、女性農業委員の登用促進、市農業振興の発展に貢献しているとともに、県農業会議副会長として農業委員会組織の発展にも力を注いでいることが認められ、ダブルの受賞となりました。

今後も農業者の代表として皆様とともに、本市農業の発展のために頑張つてまいります。

(横田文男委員)



建議要望に対する回答について

平成26年度栃木市に対する農業施策に関する建議要望の回答要旨は次の通りです。

① 経営構造対策の推進

今年度新規就農者の支援拡大を図るため、新規就農サポート事業補助金10万円を30万円に増額します。

また、新規就農者の営農技術向上のために、先進農家での研修に対する支援や受け入れる先進農家への支援についても、今後検討します。

グリーンツーリズム活動については、先進事例等を参考に助成制度を検討します。

耕作放棄地の解消等については、より良い方法を検討するため、地域座談会等を開き、地域の力を合わせて耕作放棄地の発生防止を図れるよう働きかけていきます。

② 農業生産振興対策

稲麦等病害虫防除事業費補助金は今後、農業者の利用状況を見極めながら補助金額を検討します。

食の安全安心対策については、安全な農産物を生産するため、平

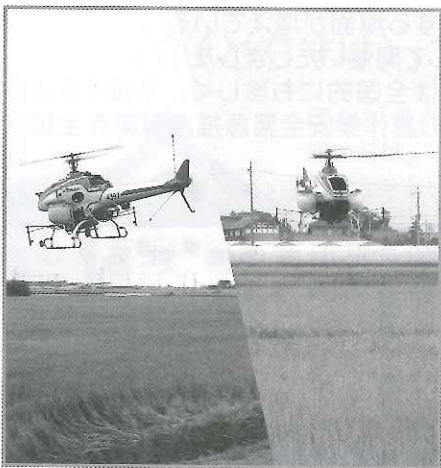
成25年度に引き続き農産物残留農薬検査補助金として検査費用の一部を補助します。

③ 有害鳥獣の被害防止対策の強化

平成25年度については、新規の箱罾5基を増設し、また侵入防止柵を栃木地域では2km、都賀地域では2.1km新たに設置しました。

今後も里山林整備事業を進めるとともに、駆除従事者の増加を促進するため、今年度から罾猟免許の取得に1万円、更新費用に5千円補助します。近隣市町との情報交換を通じて、より一層広域的な鳥獣害対策となるよう連絡を密にしていきます。

(石川和芳委員)



専門委員会の活動状況

耕作放棄地対策委員会

平成25年7月より耕作放棄地対策委員会が発足しました。毎年8月から11月にかけて農地パトロールや、農地利用の現況報告を基に、遊休農地や農家の高齢化、担い手不足による耕作放棄地の増加をくい止めるための勉強会、視察を実施しています。

昨年10月11日、足利市農業委員会に視察に行き、茅島淳二副委員長他12名が研修に参加し耕作放棄地解消対策事業について、意見交換しました。足利市でも後継者不足、山間部では鳥獣被害も深刻なようです。「農地貸します」の立札には、面積と賃借料と事務局の連絡先を印字して



ありました。委員会を介して賃借を円滑にし、活動の見える化に繋げたいそうです。

10月31日に吹上公民館での全体会議にて、整地した農地を二次産業に繋げる術と、農地パトロールの現況報告と解消候補についても話し合いました。

栃木地域では、東日本大震災により福島県双葉町から志島町に定住した農業者方1,200㎡の遊休農地の刈払を行い、大変喜ばれました。藤岡地域では、900㎡の遊休農地の刈払と耕起を大型トラクターなどを使って行い、農地に復元しました。大事な農地をお互いに協力しあって守っていきましょう。

(耕作放棄地委員長 篠崎通男)

なでしこ委員会

県農村女性トップリーダー研修会に参加して

懇談会ではまず「農業・農政の方向と私たちの活動への一考察」をテーマに、栃木県農業会議会長の国井正幸先生から講話をいただき、今後の流れを伺うことができ、情勢は厳しいが決して悲観的になつてはいけないとの思いを強く持ちました。

次に「いなほ総合農園」の方の活動報告がありました。10年間公益団体の職員として働き、就農してからは意欲的に農業を営んでいます。女性の経営参画のモデル的存在といえ、目指すべき目標ができました。

(なでしこ委員会 岸シツエ)

農作業安全教室に参加して

トラクター、管理機等の安全対策を学びました。「取扱説明書をよく読み、いつでも見られる所に保管しておくこと」の大切さを改めて感じました。また、起動する前に点検整備を行う、途中の点検をする時は必ずエンジンを切るなど、小さなことから大きな事故を防ぐ

ことができると思ひました。この日得たことを「知は力なり」とこれからの仕事に役立てたいです。

(なでしこ委員会 毛塚玲子)

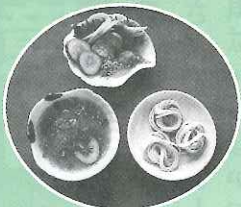


郷土料理を訪ねて～藤岡冷汁編～

昔から、農作業の忙しいときに火を使わずに作れる冷汁。また、良質の小麦粉から作るうどんは日常にも行事にも欠かせず、この冷汁との相性はぴったり。

今では健康、地産地消、旬を感じるすばらしいスローフードです。

(渡辺計子 委員)



大雪で過去最大の農業被害 被害額 五十四億円

平成26年2月14日から15日にかけて関東地方を中心に大雪に見舞われ、農業施設や栽培作物に甚大な被害が出てしまいました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

市の被害状況は、施設被害は鉄骨ハウスやパイプハウスを中心に、被害面積約5,025アールで被害額約48億300万円、作物被害は、被害面積約4,113アールで被害額約6億6,200万円で、被害総額は市の自然



いちごハウス

災害としては過去最大となる約54億6,500万円にのぼるといふことです。

大雪被害対策として、国に加えて県・市が助成を行う「被災農業者向け経営体育成支援事業」が実施されます。これは、大雪により被害を受けた、農産物の生産に必要な施設等の再建・修繕に対する支援です。被災した施設の撤去についても対象となります。ただし、今後も営農を継続することなど助成を受けるにはいくつか条件があります。また、この事業の助成対象とならない農業者の方には「園芸施設等復旧支援補助」が市独自で実施されます。

また、被害果樹の改植費用や、これに伴う未収益期間に必要な経費を助成する「果樹経営支援対策事業」「果樹未収益期間支援事業」、被災作物面積にに応じて、次作付までに必要な農地管理費を助成する「収益減少のための次作付支援」などがあります。

今回の大雪で被害の出た農業施設等の復旧について、市は国及び県並びにJAしもつけ、JAかみつがとも連携を密にして早急に農業施設等の復旧が図れるよう支援をしていくとのことです。

われわれ農業委員も「地域に寄りそう農業委員会」として復旧・営農再開に向けたお手伝いをしてまいりますとともに農業者の皆様のお役にたてるよう今後とも努力してまいります。



ぶどうハウス

被害を受けた都賀地域のいちご農家、泉田格さんのコメント「夜中の12時半頃は何もなかったのに、朝起きて見たらハウスが倒れていて啞然としてしまいました。今後は単棟ハウスを建てて再開したいのですが、単棟ハウスは連棟ハウスに比べ面積が必要なので農地をどう確保するか悩みます」

(早乙女正司委員・手塚政子委員)



トマトハウス

日本のプレミアムいちご スカイベリー



平成25年産の作付は、県内で99戸、面積で610アール、下都賀地域では25戸、160アールで、都賀地域では、5戸の農家で27アールが栽培されています。栽培者の一人である伏木和男さんにお話をうかがいました。

果実は円すい型できわめて大きく25グラム以上あるものが六割を占めます。糖度が高く、ジューシーでまろやかな味わいで、鮮度によって「リンゴ」「メロン」「スイカ」または「もも」といった味わいがあるといわれます。

とちぎ市生まれ スカイベリー



大塚町の農業試験場いちご研究所で、新品種「とちぎi27号」が開発されました。平成23年11月15日農林水産省に品種登録出願、平成24年3月本品種の名称についての商標登録出願を経て、9月7日「スカイベリー」は誕生しました。この名称は公募により決定したもので、本県にある百名山「皇海山（すかいさん）」にちなみ、「大

とちおとめと比較すると

収量が多く、耐病性に優れ特にうどんこ病にはきわめて強いとのことですが、「まだら果」の発生、果皮が薄くキズがつきやすい、糖度のばらつきがあるなどの欠点もあるようです。次作からは、一条植で果実に光を十分にあて、肉厚の果皮と着色の安定をはかり「まだら果」の防止に努め、夜冷育苗で11月出荷を目指したいと、張り切っておられました。

期待をこめて、日本一の品種になることを願っております。

「美しさ」「おいしさ」のすべてが日本中で愛されるいちごになってほしいとの願いをこめたものだそうです。

(大塚幸八委員)



栃木市認定農業者協議会

これまで旧市町の地域で活動してきた認定農業者協議会は、このたび一つになり、3月に合併設立総会を開催し、新たに「栃木市認定農業者協議会」として会員数460名でスタートしました。

TPPの問題をはじめ、農業従事者の高齢化、担い手の減少等、多くの課題に直面している今、優れた農業経営、また技術を持った認定農業者が、多様で特徴的な地域性を活かした支部活動を中心に、自ら安定的な農業経営に努め、更なる技術の向上や新たな農業経営者の育成を図りつつ、地域農業の発展のために、活発な組織活動を展開していきます。

(牛久秀一委員)

平成26年度 全国情報会議表彰式

○全国農業新聞優秀農業委員会団体表彰

【栃木市農業委員会】

【岩舟町農業委員会】

○情報活動功労者表彰
8名入賞

栃木市青少年クラブ協議会

青少年クラブ協議会は、遊休農地を活用した「栃木どろんこバレー大会」を毎年開催しています。

農村と都市の交流をとおして農業と街の活性化を図るイベントで、市内外から参加者を迎え、昨年で5回目を迎えました。

バレーの他、フラッグレース、なでしこどろんこ相撲、キッズ宝探しなど幅広い年齢の方が「どろんこ」になって楽しんでいきます。

今後は観光面での企画も加えるなど、市内での滞在時間を長くすること、さらなる活性化を目指そうと考えています。



農業者年金現況届

農業者年金受給者は、年1回「現況届」を提出いただくことになっていきます。6月中に提出してください。

【問合せ】農業委員会事務局

(☎21-2393)

土地利用型を目指す若手農業者に夢を

藤岡町/渡辺正行さん

渡辺さんは学校を卒業後就農し、お父さんと、2.5haの経営面積から始めました。現在9人を雇用し、経営面積130haの大規模な土地利用型農業経営を行っています。更なる経営規模拡大を図るため、育苗作業の労働力低減を目指し、鉄コーティング湛水直播栽培による省力・低コスト化についての実証調査を行い、大きな成果を収め、安定生産を行っています。また、小麦の生産では、生産者として粘弾性向上のため播種量、施肥量調整などを工夫し、県内製粉会社との



連携によりうどんの素材に最適な「コシとももち感」のある小麦粉を作っています。あわせて小麦業界では、実現できなかったトレーサビリティにも取り組んでいます。省力・軽労・低コスト・高品質生産技術の追求を経営目標に掲げ、次代を担う若手農業者に夢を与えるためにも、渡辺さんは自身の夢に向かって歩み続け、創意と工夫で経営に取り組む情熱家であり努力家です。

《取材：毛塚渡委員》

注：トレーサビリティ：食品の生産・流通過程における追跡可能性

アグリスト 頑張ってます！Agrist（農・業・人）

美味しいトマトをめざして三人三脚

大平町/熊倉孝雄さん・康行さん

トマト栽培を始めて35年、今は長男とともに農業に携われる喜びをしみじみ感じる毎日です。5年前、8年間の会社勤めを辞めて農業をやるという息子に、嬉しさと不安が入り混じり戸惑いました。農業の知識も無い全くの素人でしたので、栃木トマト部会の農業士の大山寛さんのもと、1年間トマトの栽培技術・経営の基本などの研修を受けさせていただき就農させました。下都賀農業振興事務所・農協の指導や、トマト部会青年部の仲間と切磋琢磨しながら、少しずつ慣れてきたようです。平成23年に国の事業を活用し、高軒高の低コスト耐候性ハウス50aを建設しました。トマト栽培も機械化され、パソコンを活用して日照・温度・湿度・CO₂・水分などのデータが目に見える形で栽培する時代になりました。

今後は経営の安定化を図り、時間に追われながらも心に余裕をもって農業経営を行い、安全・安心な美味しいトマトを消費者に届けたいと思います。

《取材：石川和芳委員/原稿：熊倉孝雄さん提供》



※Agristとは「農業する人」の意味の造語です

編集後記

「とち介(とちすけ)」です。



ぼくは、栃木市で生まれた
蔵の妖精。
蔵のすきんにマントが
お気に入り。
何にでも積極的。
新しい栃木市を応援するため、
いろんなところで
でかけていくヨ。
よろしくおねがいします。

2月15日に起きた甚大な雪の被害。今回の農業委員会だより編集委員会は、降雪被害にみまわれた農家への取材から始まりました。

惨状を目の当たりにして言葉もなく、何をどう伝えたらいいのか、正確な情報を届けるため委員全員で気持ちを引き締めて取り組み、発行した第2号です。地域に密着した情報提供を目指し、これからも頑張っていきたいと思えます。

(手塚政子 編集副委員長)



本誌は環境に配慮し再生紙と大豆インキを使用しています。